

渡り鳥

日本でこの時季、ガンカモ類で一番にぎわっているのは宮城県北部です。県鳥でもあるマガンは15万羽ほどが越冬し、国内に飛来する総数の9割を超えます。あまり知られていませんが、オオハクチョウも多く飛来します。国内で越冬するオオハクチョウの半数が宮城県で越冬するのです。そして伊豆沼・内沼はオオハクチョウの国内最大の越冬地です。

なぜ、これだけのガンカモ類が集まるのでしょうか。人と同じように鳥にも衣食住が必要で、食べる場所と寝る場所が大切です。彼らの食べる場所は主に水田です。沼周辺に広がる水田で収穫後の落ち粃（もみ）を食べます。農家の営みが鳥たちを守ることにそのままつながっているのです。

オオハクチョウは沼の中でレンコンも食べます。夏、伊豆沼はピンクのハスで覆われます。そのレンコンはオオハクチョウの大切な食物なのです。

水田にでかけても彼らは沼に戻ってきて寝ます。水の中にいれば、キツネなどの哺乳類が近づくことができないため、安全に休めるからです。そのため、沼が長期間凍る地域では冬を過ごせません。伊豆沼は1月の平均気温が0度で、沼が凍りにくい地域の北限にあります。安全なねぐらなのです。

宮城県北部には伊豆沼・内沼のほかにも、蕪栗沼、化女沼があり、周辺の水田とともにガンカモ類にねぐらと食べものを提供しています。安全なねぐらと食べものが十分にあるために鳥たちは集まるのです。そして三つの沼とも重要な湿地としてラムサール条約に登録され、ラムサールトライアングルと呼ばれています。

さて、とにかく人は自然を管理できると思いがちです。圧倒的な自然を目の当たりにしないと、自然への畏れを抱きにくいのかもかもしれません。この時季にしか見られないマガンの朝の飛び立ちをぜひご覧ください。圧倒的な自然を体感できます。

嶋田哲郎

(河北新報・微風旋風 2015年1月8日掲載)